



日本共産党市議会議員
小野寺ゆきえです！

父のお参りに行って

民主 苦小牧号外
2026年
8.23
No.1153



今年は父の新盆です。いつもは「お盆は飛行機代が高い」「どこに行っても混んでいる」という理由から、埼玉の娘はお盆に帰省したことがありません。しかし「じいちゃんの新盆だから」と娘が孫を連れて帰ってきました。これは大変。娘が帰省すると、他の子どもたちも集まって来ます。総勢11人の孫も大集合です。

明德町のお寺に、子どもたちとそのパートナー、孫たちが大集合し、そろそろと納骨堂にお参りに行ってきました。全員がお線香をあげると、香炉に立てきれないので、お線香は子どもたちに限定し、孫たちは手を合わせて“なむなむ”するだけにしました。

生前は、おちゃめで愉快でおしゃべり、そして口

うるさくもあった母は、10年前から納骨堂で眠っています。「じいちゃん、ばあちゃんと仲良くしているかな？」「うるさくてゆっくり休めていないかも」と、子どもたちが言います。その夜、私の夢に父が出てきて、とても優しい顔で笑い、何かを言っています。孫やひ孫に会えて嬉しかったんだと思います。

父が亡くなる2日前、石狩市に住んでいる息子が、子どもたちを連れて入院先にお見舞いに来ました。父は、息子の子ども達（ひ孫）に会ったのが始めてです。やっと、全員のひ孫の顔を見せることができました。残念ながら、抱く力は残っていませんでしたが。この頃、父は何も食べることができませんでした。「なめるだけでも」と、用意しておいたアイスクリームを、父が『ひ孫たちに）食べさせてやれ』と言い、病室でみんなで分けて食べました。小さなひ孫たちが喜んでいる姿を見て、父はじーっと目を細めてうなずいていました。

父の枕元には、孫とひ孫の写真を飾っていました。娘が「じいちゃんが寂しくないように」と用意してくれた写真です。父は看護師さんに自慢していたそうです。

父と母が私に命を繋いでくれ、子どもたち、そして孫たちへと繋がっている命の大切を感じます。小さく弱々しかった孫たちが、力強く成長しています。そんな姿にエネルギーが充電されていくようです。毎日がどんなに忙しくても、気持ちが暗くなりそうな時も、広い心を持って「なんとかなるさ！」で、乗り越えられそうな気持ちになれることに、感謝します。